

日時：令和6年10月22日（火）午後3時～

場所：和泉市役所5階 5A会議室

第3回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会

次 第

1. 開会

2. 前回の議論のふりかえり

3. 運営ビジョンの章立て案について

4. 議題

(1) 使命(ミッション)、基本方針(ビジョン)の修正案の確認

(2) 取組方針(コンセプト)案の内容について

(3) 先行的取組について

- ① 美術館を知ってもらいより多くの方に来て頂く戦略的な広報宣伝活動とインバウンド戦略
- ② 関係機関との連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす
- ③ リニューアル計画の推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館
- ④ グローバルな文化歴史財産として、他館との連携強化と世界の美術館との交流促進
- ⑤ 組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ

5. その他

・次回開催日：

令和6年12月3日（火）午後3時～午後5時(終了予定)

場所 市役所3階 庁議室

《配布資料》

資料1 運営ビジョンの章立て案

資料2 使命(ミッション)、基本方針(ビジョン) 修正案

資料3 取組方針(コンセプト) 案

資料4 先行的取組ワーキンググループ会議経過報告

参考資料1：第2回委員会論点別委員意見整理

和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン 目次案

はじめに**第 1 章 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョンの策定について**

- 1 策定の趣旨
- 2 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョンの位置づけと構成
- 3 計画の実施推進期間

第 2 章 運営ビジョン策定の背景 ー和泉市久保惣記念美術館の歩み

- 1 和泉市久保惣記念美術館の概況と沿革
- 2 和泉市久保惣記念美術館のこれまでの取組と特色
 - (1) コレクション
 - (2) 展示事業
 - (3) 教育普及事業
 - (4) 市民ギャラリー事業
 - (5) 音楽ホール事業
 - (6) 市民創作教室の活動
 - (7) 和泉・久保惣ミュージアムタウン事業
- 3 和泉市久保惣記念美術館を取り巻く現状と課題
 - (1) 美術館の現状（数値データ・来館者数・アンケート調査）
 - (2) 美術館を取り巻く社会環境の変化
 - (3) 将来に向けた課題

第 3 章 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン

- 1 使命（ミッション）
- 2 基本方針（ビジョン）
- 3 運営の取組み方針（コンセプト）
 - (1) 美術品の収集、保存・活用（デジタルアーカイブ等）
 - (2) 調査・研究の充実（学芸員の人材確保・育成等）
 - (3) 展覧会・教育普及の充実（常設展・特別展のあり方、手法等）
 - (4) 伝えたい人に「伝わる」広報・発信
 - (5) 多様な主体との連携協力、パートナーシップ
 - (6) 地域活性化・地域貢献：交流促進、観光振興
 - (7) 経営・環境・施設整備

第 4 章 ビジョン推進のために(重点的な取組)

- 1 美術館を知ってもらいより多くの方に来て頂く戦略的な広報宣伝活動とインバウンド戦略
- 2 関係機関との連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす
- 3 リニューアル計画の推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館
- 4 グローバルな文化歴史財産として、他館との連携強化と世界の美術館との交流促進
- 5 組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ

【参考資料】

- 1 策定の経過
- 2 パブリックコメントについて

使命(ミッション) と基本方針(ビジョン)

I 使命(ミッション)

- ・ 開館から 40 年余りの時が流れ、令和 4 年度に博物館法が改正されなど美術館を取り巻く環境も大きく変化する中で、当館が有するコレクションも大きく変化し、美術館の歴史や周辺のまちづくりの変化、そして文化芸術科学ふれあい体験事業の成果などあらゆるリソース(資源)を用いた、これから先を見通した独自のミッションを打ち出す必要があります。
- ・ 和泉市久保惣記念美術館のミッション(使命)は、和泉市美術館条例第 1 条に設置目的として「美術に対する知識及び教養の向上並びに芸術の創造及び普及に資する施設として、美術館を設置する。」と書かれています。
- ・ 新たに追記しなければならない要素として、更にまちづくり、国際交流、観光、産業、福祉等の関係機関との連携協力を進め地域活力の向上にも繋げていく必要があります。

使命(ミッション)案：美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割とは？

① 普遍的な価値を伝え、多様な価値観・心の豊かさを育む美術館：

地元企業「久保惣」からの寄贈を礎とした、芸術や文化を鑑賞する建物空間において、**国宝、重要文化財を含む東洋古美術や西洋美術などの多彩国内有数の多種多様な**収蔵品とをはじめ、数寄屋の歴史を語る茶室、四季折々の庭園の姿など、**先人から受け継がれてきた普遍的な価値を多くの人と文化・歴史・感性を享受することにより、多様な価値観や心の豊かさ豊かな感性を育む機会を提供します。**

② 未来の和泉を創造するの拠点となる美術館：

双方向のコミュニケーションを軸に、地域社会との相互交流・住民参加のほか、多様な主体との連携協力を進めることにより、新しい価値を生み出し、社会の創造性を高めることで、市民の誇りを醸成し、**未来を担う次世代を育む**拠点を目指します。

③ まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館：

和泉市を含む泉州地域で発展した繊維産業の隆盛を今に伝える**唯一無二の美術館**、美術館とまちが融合したミュージアムタウンにある美術館として、**地域の歴史文化を継承し、アートを通じた人と人との繋がりを広げる**ことで、「暮らしの中にある**身近な美術館**」としての存在意義を高め、地域の価値及び活力の向上に繋げていきます。

Ⅱ 基本方針(ビジョン)

基本方針(ビジョン)案：10年後美術館が目指すべき姿とは？

今ある美術館のリソースを最大限に使いこなし、地域に深く根差すことで、まちと美術館が融合したミュージアムタウンの拠点として国内外の多様な人々が集い、和泉の価値と創造性を高める循環を生み出し、なる美術館の魅力伝え、育むため、持続的な成長を果たします。

- ・ 現在、和泉市久保惣記念美術館には、国宝、重要文化財を含む約1万2000点の多種多様なコレクションや、不審庵の写しである茶室、庭園など国内有数の普遍的価値をもつ財産がある他、学芸員や他館とのネットワーク等の人的資源、美術館の建物そのものや未利用地等、多くのリソースを有していながらそれらを最大限に活かしておらず、社会の変化や多様化するニーズに合わせた活用や再編が必要とされています。
- ・ 和泉市久保惣記念美術館の成り立ち（繊維業で成功を収めた地元企業「久保惣」による寄贈を基に、和泉市が設置した美術館）を踏まえ、まちと人を紡ぐ地域に根ざした美術館であることを礎とし、「美術館のあるまち」としてのブランディングを深化させ、多くの人を魅了する、唯一無二の存在感を発揮していきます。
- ・ 文化行政や社会教育の枠を超えて、和泉市のブランドイメージとしての美術館が、クリエイティブエコノミー（創造経済）による地域再生（子ども達の創造性を豊かにし、デザインとビジネスが有機的に交わり結びつく和泉）を実現します。

Ⅲ 取組方針(コンセプト)

根幹・本質の磨き上げ

1. 美術品の収集、保存・活用

【取組項目】

①美術品の体系的な収集・充実

- ・ 美術館の定める方針や計画を踏まえ体系的、継続的に収集を行う。
- ・ 東洋古美術の絵画、浮世絵版画、書、工芸の更なる充実により、当館収蔵品の特質を堅持し層を厚くしていく。また、西洋近代美術の活用を広めるため、関連する作品の収集を図る。

②美術品の適切な保存

- ・ 市民の文化財産を安全かつ適切に保存する必要から、計画的な施設・設備更新が重要となる。
- ・ 保存事業については、継続した美術品の収集に対応するため、収蔵庫の拡張を図る。
- ・ 従来の燻蒸による殺虫、殺カビの保全方法から、日常の清掃、保存環境の整備を重視した文化財 IPM(総合的有害生物管理)の手法による作品保護を行う。

③デジタルアーカイブの推進・活用

- ・ デジタルアーカイブとして、収蔵品の画像公開を進め、市民及び研究者に向け、多くの収蔵品について知る機会を提供し、活用を図る。また、フィルム写真については、劣化に備え、デジタル化を進めていく。

2. 調査・研究の充実

①専門性を高める取組

- ・ 学芸員の資質向上に直結する、独自企画の特別展を継続して実施していく。特別展及び他の展覧会準備のための調査・研究および学芸員個々のテーマ研究のため外部美術館等の調査を行う。
- ・ 当館学芸員及び外部研究者による収蔵品調査を行うことができる収蔵品調査用スペースの整備を図る。

②専門性を支える人材の確保

- ・ 計画的な学芸員採用を行い、研究の蓄積や美術品取扱い技術を継承する。

③調査・研究の成果を伝える出版物の発行

- ・ 当館の研究事業の成果である図録・紀要・研究書を継続的に発行する。

3. 展覧会・教育普及の充実

①特別展・企画展示の充実、他館との連携強化

- ・ 特別展は収蔵品に関連した絵画や工芸をテーマとした企画を継続して実施する。加えて、東洋古美術以外の西洋近代美術等の収蔵品に関連するテーマによる企画展を開催する。
- ・ 当館の特色に沿った美術分野において、他館が収蔵する作品を借用しまとめて公開するなど、他館との連携企画を検討する。また、当館収蔵品を貸し出し、他館にて展示することで当館のPRを行うとともに、他館との連携を強化する。
- ・ 収蔵品を活用した企画展示では、美術館の顔となっている国指定品の展示のほか、広く親しまれている浮世絵版画を軸に、日本絵画、中国絵画、日本中国の工芸品、西洋近代美術を公開していく。

②展示環境の整備、PR スペースの確保

- ・ 特別展や収蔵品を使った企画展示を、入館して最初に見ていただく展示を可能とするために、入口となっている新館で開催する展示環境の整備や入館時の印象を強める PR スペースの確保を検討する。
- ・ 教育普及活動として、講座、ワークショップを開催することに加え、作品調査の場としても利用が可能な多目的室の確保を検討する。

③学校との連携、美術に親しむ機会の提供

- ・ 小中学校と連携し、子どもたちや教員が美術に親しめる連携事業を検討する。
- ・ 分かりやすい展示キャプションの設置、学芸員によるスライドレクチャーや市民員講座の実施により、美術に親しむ機会を提供する。

根幹・本質を伝える

展覧会の根幹・本質について、ターゲット層を意識し、効果的な方法で発信する必要がある

4. 伝えたい人に「伝わる」広報・発信

【誰に(市民、インバウンド等)×何を(所蔵品、展覧会、施設等)伝える戦略】

美術館だけでなく、施設の運営や経営においてマーケティングを含めた広報・発信事業は、非常に大きな役割となっている。素晴らしい展覧会を開催し貴重な美術品や資料の展示を実施したとしても、そのことが伝えたい人に伝わらなければ効果が薄い。近年、SNS の充実・利用者の拡大により、多彩な広報が展開できることから、より効果的なコンテンツを有効的に活用することが重要になっている。

【取組項目】

① 市広報紙への掲載

- ・ 収蔵作品や展示・普及事業の告知・報告等を掲載し、美術館の事業を広報することで、市民の貴重な文化財産として誇りをもって頂き、市民の美術に対する興味・関心を高める。

② SNS 等の充実

- ・ 費用対効果を考えた場合、紙ベースによる広告に比べ、X や Instagram など SNS を

活用することの方が、ターゲットに向けて確実に情報を届けることが可能となる。ただし、そのためには、和泉市久保惣記念美術館のファン(フォロワー)や検索数をいかに多くするかに掛かってくる。特に SNS は来館者をひとつのメディアとしてとらえられることから、タイムリーな情報提供を行うとともに、収蔵品が持つ多様な情報(背景・ストーリーなど)を広く提供することで、来館者による SNS での情報拡散を図る。

- ・ 若年層や外国人観光客等を意識し、館内の施設等を活かした映えスポット(写真を撮りたくなる場所)づくりを進める。

③ 関係機関への情報提供

- ・ 報道機関へのプレスリリースや訪問等による広報活動をはじめ、情報誌等の媒体に対する情報提供、多様な主体への広報活動を積極的に行う。
- ・ 特に美術館事業は、博物館法に基づいた教育普及の役割や対象者を市民に限定しないため、ニュース性を伴えば社会面や地域情報コーナーで取り上げられることも可能であることから、見られることを意識した情報発信と事業展開を行っていく。

④ 広報資料の提供

- ・ 各展覧会のポスター・チラシ等をはじめ、年間展示案内や各事業の告知・報告資料等の広報資料の提供先を体系的に整理し計画的かつ迅速な情報提供を行う。

地域、社会との多様な関わり

多様な主体による、多様な活用が展開される美術館が求められている

5. 多様な主体との連携協力、パートナーシップ

基本方針(ビジョン)に定める、『今ある美術館のリソースを最大限に使いこなし、地域に深く根差すことで、まちと美術館が融合したミュージアムタウンの拠点として国内外の多様な人々が集い、和泉の価値と創造性を高める循環を生み出し、持続的な成長を果たします。』の達成のためにも、文化行政の枠を超えて、まちづくり・国際交流、観光・産業、福祉など様々な関係機関との連携強化を図り美術館のリソースを最大限に使いこなす必要がある。

【取組項目】

- ① 市内の教育機関との連携
- ② 市内の企業家との連携
- ③ 和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアムとの連携
- ④ 国際交流機関との連携
- ⑤ 医療・福祉機関との連携

6. 地域活性化・地域貢献：交流促進、観光振興

美術館の活動を通じて、地域を活性化し、地域貢献を果たすにあたり、地域と美術館の関係は大きく2つに分けられる。一つは、美術館と地域の人たちとの文化を通じた直接的な関わりによる「交流促進」。もう一つは、地域外の人たちが美術館を訪れることで生まれる地域への経済的な影響「観光振興」。いずれも、地域活性化を通じて地域への貢献に繋がる美術館の取組のひとつである。

【取組項目】

①施設を活用した来館者層の拡大、来館機会の創出

- ・ 美術館には、美術品の展示スペースだけでなく「市民ホール」、「市民ギャラリー」、「創作教室棟」、「茶室」、「西棟」など市民をはじめ教育関係者や企業関係者による文化芸術活動やおもてなしの場となる多彩な施設が充実している。これら施設を活用し展覧会の開催と併せて様々な事業を行うことで、更に美術館に来館される方の満足度を高め入館者数を増やしていく。

②インバウンド向けの取組展開

- ・ 美術館が持つ美術リソースは、世界的に見ても評価が高く多彩なコレクションを収蔵している。これら美術リソースの魅力をより多くの人々に伝え、文化の振興に再投資される好循環を生み出すことで、地域の活性化や文化芸術の発展につなげていくことが期待されている。
- ・ 特に、浮世絵ややまと絵など日本美術はインバウンドの方にも人気が高く、これらと美術館が所蔵する古地図や西洋近代美術を併せた新しい企画展の開催も検討する。また、「多言語表記に関する仕組み」や「創作教室棟を活用した体験型プログラムの提供」などを検討する。

根幹・本質を支える基盤整備

- ・ 運営体制、施設環境は「調査・研究」「展覧会・教育普及」と密接に係る内容
- ・ 根幹が揺るがないような、基盤の再構築が必要

【体制】

- ・ 組織マネジメント：人材確保、人材育成、持続可能な体制
- ・ 収入源の多様化、資金調達の戦略

【施設】

- ・ 新たな役割・機能に応じた施設のリニューアル
- ・ 所有する土地の活用による取組の充実

7. 経営、環境、施設整備

近年、美術館は、まちづくりや観光資源などの役割の多様化や社会情勢の変化により、多くの課題に直面している。美術館が直面する現代的課題は、①「事業収入の少なさ」、②「入館者数の

伸び悩み」、③「専門的人材の不足」、④「脆弱なマネジメント力」、⑤「施設・設備の老朽化」などがあげられる。

【取組項目】

①収益の向上、確保

- ・ 西棟の高付加価値な利用策として協賛金を求める工夫、美術館グッズの販売力の強化、美術館リソースを最大限に活用した新たな収益増など入場料収入以外の事業収入を増やす。

②来館者数の確保

- ・ コレクションを最大限活かすための展示スペースの見直し、近隣大学との連携、平日来館者数の増加を狙った新たな取組を進める。

③民間活力を活かした運営

- ・ 広報・発信業務や施設の総合管理への移行など専門的知識を有する民間活用の推進する。

④多様な主体・機関との連携強化

- ・ 各種団体などの関係機関との連携強化を図り、メディア、ホテル経営者、旅行会社、レンタサイクル事業者や交通機関など、多岐にわたる事業者等との新たな連携、目標を共有する館内のマネジメント強化を図る。

⑤施設のリニューアル

- ・ 開館 40 年以上を経過した美術館の老朽化を踏まえ、リニューアル構想に基づいた施設整備を図る。



部会名	リニューアル基本構想策定部会
内容	リニューアル計画の推進により収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館へ
目的	運営ビジョンの達成に向けて、この10年で先行的に取り組む項目として、美術館の長寿命化に併せて、寄贈敷地の有効利用と収蔵品を活かした常設展の開催に対応するリニューアル基本構想を策定する。
効果	リニューアルにより美術館の最大コレクションが常設展を深化させアートの街づくりと併せ観光資源となる。

現状分析・課題点

- 開館から40年を超え各設備の老朽化が著しく、来館者にもご迷惑をお掛けすることもあるなど、施設の傷みは収蔵美術品にも大きな影響を与えかねないほど進行
- 昭和57年500点のコレクションでスタートした美術館、現在の12000点(内浮世絵が6千点以上)に対応した展示室と収蔵庫の配置検討。
- 美術館固有の課題の検討。(寄贈を受けた隣接用地の活用・新館と本館エントランスを結ぶ美術館の観覧動線・研修室、レストラン、ミュージアムグッズ販売スペースの充実・西棟の考え方を踏まえた活用方針・AR技術など最新の技術を活用・観光資源としてインバウンド戦略・茶室の保存活用計画の取組み)

対応策

- 長寿命化計画だけでは、現状を維持するだけであり、50年前と大きく変化した多くのコレクション(市の文化財産)を市民に還元し、グローバルな文化財産として世界に発信するためリニューアル基本構想を策定する。
- リニューアル基本構想により、美術館のコレクションを最大限に活かした展覧会の開催が可能となり、より多くの方が美術館を享受することが可能となる。
※リニューアル後の新館で、人気の浮世絵と印象派の絵画などを使った深化する常設展の開催でインバウンド観光の取り込み
- 関係機関との連携協力により美術館を最大限に活用し、工事費の捻出など資金確保にも繋げることが可能となる。

はじめに

昭和57年にオープンした久保惣記念美術館は、一昨年で40周年を迎えます。この間コレクションも開館時の25倍となる1万2000点に、西棟を含め全ての施設の寄付が一定完了、茶室の耐震改修も始まっています。

しかしながら、開館から40年を超え各設備の老朽化が著しく、来館者にもご迷惑をお掛けすることもあるなど、施設の傷みは収蔵美術品にも大きな影響を与えかねないほど進行しています。また、美術館本来の使命である、美術品の収集保存や展示における施設の全面的な更新が不可欠です。

同時に、現在策定中の運営ビジョンに基づき、現在所有するコレクションに対応した展示スペース、美術館に求められる新たな機能など、単なる修繕ではなく施設全体の増改築を伴うリニューアルが必要です。

第1章 背景

- I リニューアル基本構想の策定に向けて
- II 久保惣記念美術館の特色
- III 久保惣記念美術館の現状と課題
 - (1) 老朽化の現状
 - (2) 運営ビジョンに沿った見直し計画
 - (3) 美術館のコレクションに対応する常設展示（ここにしかない、揃う価値をアピールするコレクションと常設展示の重要性とエンターテインメント性を盛込んだ展示空間）
 - (4) 街づくり・集客・賑わい創出などまちの核となる美術館（ミュージアムタウンの核として河川沿いの公園、創作教室、駐車場ゾーンをみどりやアートで繋ぐ空間を創り出す）
 - (5) 子どもが美術に触れる場としての役割への期待
 - (6) 戦略的なインバウンドの取り込みに対応した改善
 - (7) 美術品を介した空間としての美術館での過ごし方
 - (8) あらゆる人にとって快適な空間として合理的配慮

第2章 目的と方向性

- I 美術館の目指す姿
 - (1) 鑑賞【和モダンな建築、登録有形文化財の茶室と和風庭園の佇まいの中で優れた美術が鑑賞できる美術館】
 - (2) 育成【人とひとを繋ぎまちをつくる美術館】
 - (3) 創造【未来を創造し参加体験する美術館】
 - (4) 交流【アートをつうじて連携・交流する美術館】
 - (5) 発信【海外の美術館と繋いで発信する美術館】
- II リニューアルの基本方針

街並みに溶け込んだ美術館の建物、財産、資源を最大限に有効活用設計意図を図る。

 - (1) 既存建物の意匠をはじめ設計意図や空間構成の本幹の尊重
 - (2) ライフサイクルコストの低減、環境負荷の軽減
 - (3) 設計当初からの合意形成の尊重
 - (4) 文化財資産として後世に残す建物
 - (5) AR技術などデジタル技術を活用する新たな展示
- III リニューアルの目的
 - (1) コレクションにあった展示室と収蔵庫の配置検討
 - ① コレクションの内容と規模の変化
 - ② 美術館のコレクション収集方針と展示室
 - ③ コレクションの特色を活かした展示室増築
 - ④ 美術館で開催するテーマを持った特別展
 - (2) 美術館固有の課題の検討
 - ① 寄贈を受けた隣接地の活用
 - ② 西棟の考え方を踏まえた活用方針
 - ③ 茶室の保存活用計画の取組み
 - ④ 新館と本館エントランスを結ぶ美術館の観覧動線
 - ⑤ 誰にでもやさしい美術館の工夫
 - ⑥ 駐車場の整備
 - (3) 美術館に求められる新たな機能や役割の検討
 - ① 研修室、レストラン、ミュージアムグッズ販売スペースの充実
 - ② AR技術など最新の技術を活用
 - ③ 観光資源としてインバウンド戦略
 - ④ 和泉・久保惣ミュージアムタウンとアートなまちづくりへの役割

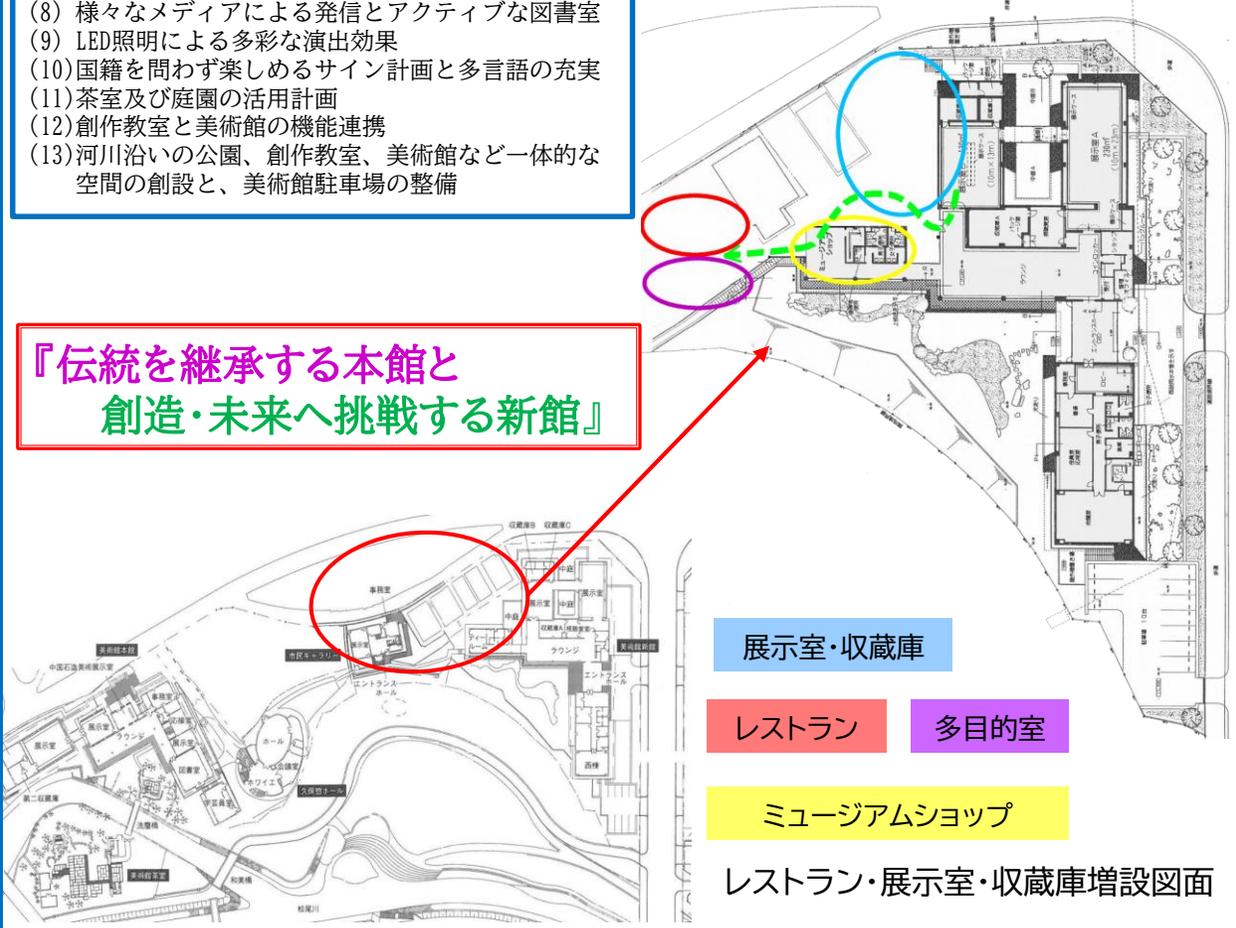
第3章 具体的内容

- I 機能と改修内容の検討
 - (1) 美術館の拡張用地の活用（展示室・収蔵庫・レストラン・多目的室・店舗スペースなどの検討）
 - (2) 浮世絵を展示できる常設展スペースの確保と配置
 - (3) 将来も見据える収蔵庫の確保
 - (4) カフェレストラン、ミュージアムショップ充実
 - (5) 美術館で行う講演会や研修を行うための諸室確保
 - (6) 誰にでもやさしい美術館
 - (7) その他必要な機能や改修が必要な部分
 - (8) 様々なメディアによる発信とアクティブな図書室
 - (9) LED照明による多彩な演出効果
 - (10) 国籍を問わず楽しめるサイン計画と多言語の充実
 - (11) 茶室及び庭園の活用計画
 - (12) 創作教室と美術館の機能連携
 - (13) 河川沿いの公園、創作教室、美術館など一体的な空間の創設と、美術館駐車場の整備

『伝統を継承する本館と
創造・未来へ挑戦する新館』

第4章 事業実施に向けて

- I 概算事業費
- II 事業資金の確保に向けた取組み
- III リニューアル後の目標と取組み
 - (1) 目標来館者数について
 - (2) 入館者増加に向けての取組みについて
 - (3) その他について





部会名	美術館のリソースを最大限に使いこなす部会
内容	関係機関と連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす。
目的	この10年で先行的に取り組む項目として、まちづくり、教育や観光、企業、国際交流、医療福祉など文化行政の枠を超えて、地域の多様な主体との連携・協力を行う仕組みや施策を検討する。
効果	美術館が単なる作品鑑賞の場だけでなく、多機能に使える仕組みにより地域の活力向上に繋がる。

現状分析・課題点
<ul style="list-style-type: none"> ● 2017年文化芸術基本法：文化芸術の範囲を拡大し、まちづくり・国際交流、観光・産業、福祉等との連携を範疇とした。 ● 改正博物館法に美術館の成果の活用、関係機関との連携協力による文化観光など地域の活力向上が努力義務として定められた。 ● 久保惣記念美術館の運営ビジョン策定委員会では、論点となる項目として、「②関係機関と連携協力により美術館のリソースを最大限に活用し地域活力の向上に繋げる。」が示されている。 ● 特に(1)市内の企業 (2)桃山学院大学 (3)市内小中学校 (4)久保惣MTコンソーシアム (5)医療福祉機関との連携協力を進め、より多く方に美術館を使って頂くこととしている。

対応策
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校で行っている体験事業を更に進化させるために、教員で構成された図工部会による美術館活用プログラムの研究を行う。 ● 中学校の美術部による美術館とのコラボ事業の検討を行う。 ● 市内企業と美術館を応援し利用する「(仮称)企業家プレミアムクラブ」を創設を検討する。 ● 桃山学院大学と(仮称)キャンパスメンバーズ制度の創設を検討する。 ● 先進的な美術館の取組み事例や市内の医療・福祉施設などにも美術館活用に向けた調査を行い、今後のデジタルアーカイブの活用など検討資料として取りまとめを行う。

美術館のリソースを最大限に使いこなす

資料4 P.4

KUBOSO

MEMORIAL MUSEUM OF ARTS, IZUMI

美術館とまちづくりや教育、国際交流、観光、産業、福祉など関係団体、関係者との連携を更に築きます。

久保惣MT コンソーシアム



河野邸

- ・国際交流基金関西国際センターとの外交官研修事業
- ・海外の美術館と連携



国際交流



市内の小中学校

- ・文化芸術ふれあい体験事業+α
- ・小学校ミュージアムラボの検討
- ・中学校ミュージアムスクールクラブを検討



久保惣記念美術館

- ・企業家プレミアムクラブの創設
- ・ビジネスのアートシンキングなど社員研修の場として活用
- ・周辺のホテルと協力に向けた実証実験

和泉商工会議所 周辺ホテル



- ・アーティストの創作活動の支援と連携
- ・音楽家のコンサート開催支援と連携

市民創作教室

市民ギャラリー

市民音楽ホール



桃山学院大学

- ・キャンパスメンバーズの創設
- ・留学生と美術館の交流連携



アートのセラピー効果など病院や福祉施設などとの連携を研究



病院・福祉施設

美術館がある街だから出来る、教育、企業、医療福祉向けの美術館活用プランの提案

久保惣記念美術館は、美術館をはじめ西棟や茶室、創作教室棟など総資産約200億円の文化財産を、文化行政の枠を超えて最大限に活用していくため、関係機関との連携を更に進めます。

教育

市内の小学校と行ってきた「ふれあい文化芸術科学体験授業」を更に進化させると共に、**アートシンキングの考えなど探求心や創造力を磨く教育に繋げていくため、新たに市内の中学校とも連携を進めていきます。**(学校教育部)

○ 小・中学校による美術館活用の研究・検討

- ・小学校で行っている体験事業を更に進化させるために、教員で構成された図工部会による美術館活用プログラムの研究を行う。
- ・中学校の美術部による美術館とのコラボ事業の検討を行う。

大学

隣接の桃山学院大学と美術館が連携協定を締結し、**学生等が展覧会の鑑賞を通じて創造力や発想力などより豊かな感性を磨くなど、美術館見学で得るものとして教育プログラムに取り入れ大学案内等にも高等教育課程に使っていただきます。**

○ キャンパスメンバーズ制度の創設

隣接の桃山学院大学とお互いのメリットを確認する中で2025年度には実際に美術館を利用する実証実験を行い生徒へのアンケート調査など結果を検証する。

企業

和泉市商工会議所との協力連携を更に進め**美術館を研修の場として、また企業の会社案内時での利用など、企業家(アントレプレイナー)精神を磨く人材育成や企業のブランドイメージを高める**一つとして美術館を使いこなして頂くプランを提供

○ 企業家プレミアムクラブの創設

和泉市商工会議所との連携協力に向けて、会議所役員へのアンケート調査を行い、賛助会員制度の創設に向けた検討を行う。

医療福祉

世界的なパンデミックを経験し芸術と医療福祉のあり方など実践・調査研究が進む中、美術館でもそれらの研究とアート×ヘルスの動向、治療の一環としての美術館利用などにも関心をもち、デジタルアーカイブの活用など研究を行います。

○ アート×ヘルスの研究

先進的な美術館の取り組み事例や市内の医療・福祉施設などにも美術館活用に向けた調査を行い、今後のデジタルアーカイブの活用なども含め検討資料として取りまとめを行う。



部会名	広報・インバウンド部会
内容	美術館を知って貰いより多くの方に来て頂く戦略的な広報宣伝活動とインバウンド戦略
目的	この10年で先行的に取り組む項目として、より多くの方に魅力的で多彩・豊富な収蔵品を有する美術館を多くの方に知って頂く広報宣伝と、これらの作品を主力とした常設会の開催とインバウンド戦略を進める。
効果	関西国際空港の近隣で外国の旅行者に人気が高い美術館として、広報戦略を上手く活用することで、国内のファン層を厚くし、リピート率が高い美術館の入館者数が増加する。

現状分析・課題点

- 関西の空港事情:3空港の発着回数の上限を、現在の約40万回から2030年頃を目処に約50万回に拡大
- 関西経済3団体のロードマップ:インバウンド数について、令和5年には1300万人、万博開催の令和7年に1500万人、大阪・夢洲でのカジノを含む統合型リゾート施設(IR)開業なども見据えて、令和12年に2千万人を目標
- 魅力的で多彩・豊富な収蔵品を有することから、外国人観光客に人気のコレクションを活かした常設展の開催が可能
- InstagramやYouTubeなどのSNS発信や広報宣伝などの業務が年々煩雑になってきている。
- シニア世代やリピーター客が多い、平日の入館者数が少ない、浮世絵ややまと絵、西洋絵画に人気集中している。

対応策

- コレクションの半数以上を収蔵する浮世絵をメインにした展覧会の開催と、それらに対応する展示室のリニューアル計画の推進
- 大阪・関西万博の開催やIRの開業予定など、インバウンド需要に対応した展覧会とプロモーションの実施
- 創作教室棟での日本文化体験アクティビティと展覧会の鑑賞を合わせた事業の検討と実証実験
- 広報宣伝活動と効果的な広告を合わせてターゲットオーディエンスに効果的にアプローチする手法に向けた事業の組立て
- 夏休み親子デーや桃山学院大学との連携協力など平日入館者数を増やすための多様な仕組み
- 2025年度を美術館プロモーションyearとした取組み



部会名	マネジメント強化と運営部会
内容	組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営の仕組みを検討する。
目的	この10年で先行的に取り組む項目として、組織の掲げるビジョン達成に向けて、組織マネジメントを強化し、久保惣記念美術館にあった効率的で効果的な運営手法を選定し移行する。
効果	ビジョンの策定により美術館の将来の姿や行うべきことが共有されることでマネジメント力の強化に繋がります、市の持つ強みと民間が持つ専門性を上手く協同した運営により繋がる。

現状分析・課題点
<ul style="list-style-type: none"> ● 財団に専門性を持つ人材が不在。 ● 財団事業の決定権を持つ理事会の理事の大部分が市の職員が兼務を行っている。(実態的には市の直営施設と同様) ● 市職員(学芸、一般)、市の会計年度任用職員、財団の非常勤、アルバイト、美術館ボランティアなど多様な職員が交わり事業を行っている。 ● 博物館法の一部改正により美術館に求められる役割が追加され、まちづくりや観光などの推進も求められている。 ● 広報宣伝活動がInstagramやYouTubeなどのSNSの活用が求められ、それらに対応するより専門的な能力が求められている。

対応策
<ul style="list-style-type: none"> ● 美術館の根幹となる調査・研究・収集業務については、市の学芸員が担う必要がある ● 展覧会業務と広報宣伝やプロモーション業務を主としたマネジメント力の強化 ● 施設管理業務の総合発注、広報宣伝業務と広告などと組み合わせた広報業務に専門性の持つ民間事業者への一括発注など、財団の職員が直接行う業務を整理し移行(例:指定管理者制度の活用)

第2回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会 論点別委員意見整理(240930)

論点/要素	各委員意見
(1) 運営ビジョン作成に向けた基礎調査等の経過	
他館へのアンケート調査について	<p>○対象：立地条件について</p> <p>【大西委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 久保惣記念美術館がもっとロケーションが良い場所にあつたら年間数十万人単位の集客が見込めるのではないかと考えている。<u>和泉中央駅から直線距離で1キロから2キロ未満に久保惣記念美術館が入るようだが、駅から500mの対象と同列で比べるのはどうか。</u> <p>【松本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 久保惣記念美術館の立地条件は決してプラスには働いていない。 <u>駅からの距離というよりも、全体的な立地環境が大きく影響する。</u> 他館から<u>立地面で損または得をしている点、苦戦している点等について、アンケートでざっくばらんに聞く</u>ことで参考になる点があるのではないかと。 <p>○料金体系の工夫</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問8-2の設問、それぞれの施設で様々な料金体系が実施されているので、<u>高齢者・大学生など属性に応じた料金体系等をアンケートで聞く</u>ほうが参考になるのではないかと。
(2) 使命(ミッション)案、基本方針(ビジョン)案、取組方針(コンセプト)案	
使命(ミッション)案	<p>○久保惣記念美術館設立の背景への言及による愛着・誇りの醸成、美術館の必然性</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたち、地域住民のふるさととしての<u>この地域という場所、久保惣記念美術館がここにあることにより愛着をもってもらうことを掲げる必要がある</u>のではないかと。 <u>久保惣が明治後半ごろになぜこの地で創業されたのか、背景の深堀をしながら、なぜ久保惣が美術収集されたのか等が書かれていれば、より子どもたちや市民への説明になる。</u>時代背景も含めてそういうことが語られると愛着・誇りに繋がる。対外的に発信するためにも背景がミッションで深堀されていると良い。 <p>【久保委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>和泉市が成り立つ背景、繊維業界が泉州企業を支えた歴史があり久保惣記念美術館が残っている、そういう話から入らないと市民に落ちてこないのではないかと。</u> 美術館だけの話をすると、茶室には戦時中に松下幸之助含めた娘さんが疎開していた。その間に工場を分割して売却し、亡くなられる前に娘さんが来られた歴史的背景がある。 <u>茶室は不審庵の写しで日本唯一ここだけで、表千家の茶会が行われ、普通なら誰も入れない不審庵を一般的に見ることができるなど、存在意義が知られていない。</u>日本の産業の移り変わりを物語っている。公的な美術館は全然違う意味があると思うが、<u>まちとしての歴史的背景があり、繊維産業がそれを支え、商工会議所や市民が絡みながら、久保惣記念美術館がある。</u>

- 例えば重要文化財・源氏物語手鑑があるが久保惣記念美術館に来て初めてここにあったのか、ということになる。流れを含めてどこかに残し、流れを紐解いておかないといけない。国公立美術館との違いはそこだと思う。
- 背景を含めて広がることで必要性の腹落ち感、美術館があることの必然性が伝わる。

【井上委員長】

- 久保惣という私の部分と和泉市という自治体の名前がこの美術館の性格を表している。自治体だけでなく企業名がついた他にはない美術館の性格をどうアピールするかということだと思う。
- 和泉市のアイデンティティや郷土愛をどう^{かんよう}涵養していくのか。久保家をはじめとする泉州の繊維産業がこの地域を支えてきたことを知らしめる場所というのも必要であり、公共性とこの地域の話とうまく織り込んでいきたい。

○地域第一義と普遍的な価値

【松本委員】

- どのような対象にむけてどうやって発信していくかというポイントは、和泉市であり久保惣である根本のところであり、市立であるので地元が第一でないといけない。
- 対地元、対地域、それに対するケアがミッションの前には一義的にないといけない。
- 収蔵している時代・地域・種別も多種多様な作品、国立も含めてそんなにない。それだけの価値のあるもの、大げさに言えば人類普遍の財産の一部を持っている。それが和泉の地にあるという、普遍的な価値についてもう一つミッションの中で高らかに謳い上げる。
- 地域第一義でなおかつ普遍的な部分を背景に持たせる。二重三重の膨らみがあると、ミッションとしてふさわしい印象と考える。

○子ども・次世代への教育

【高橋副委員長】

- 教育の一環として現状の6年生だけでなく、小学校低学年の頃からしずくを落とすように美術館のことを知ってもらうことはできないか。和泉市が発信したいことを和泉市民が知らないのでは広がらない。外部の人は来ないと思う。
- 教育に入れていけば学芸員になりたい方も出てくるかもしれない。もっと夢を持たせるような取組をしたい。教育委員会と連携をして幼稚園年長からでもしずくを落とす工夫が欲しい。

【井上委員長】

- 小学生以上の年齢も対象にしたほうが良い。地元の大学生でも久保惣記念美術館やいずみの国歴史館すらも知らない学生もいる。文化経済学では、文化を享受するのは小さいころから享受できる能力を養わないと身につかないと言われている。早期からしずくを落としていけるような施策を教育委員会にもお願いしたい。

○文化的処方、地域社会との接点としての美術館

【平田委員】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「福祉」との連携は幅が広い。実際にハンディキャップがある方がたが訪れて美術の鑑賞することもあるだろうし、高齢化社会の中で孤立している高齢者が増えてくる。<u>そういった方がたが対外的な社会生活と結ぶという意味でのアートがあって、文化的処方、孤立から心の豊かさを感じ取って頂き、地域社会とつながる一面もある。</u> <p>○来館者全てが心豊かに帰ることができる美術館</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ③のくらしの中にある美術館のところ、地域社会と和泉市の中というイメージが強いが、それにプラスして来館者全てが心豊かに帰るという視点も加えて頂きたい。
<p>基本方針(ビジョン)案、 取組方針(コンセプト)案</p>	<p>○久保惣記念美術館の価値・独自性</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 久保惣記念美術館だけでなく美術館全体のビジョンのようなイメージとなっている。<u>もう少し尖った久保惣が持っている価値を全面に盛り込んだら良いのではないか。</u>西洋美術・東洋美術を多く所蔵されているところや、他に類がない価値は学芸員さんに語って頂かないといけない部分。<u>久保惣記念美術館とはどういう美術館なのか。他の美術館とどう違い、こういう美術館をめざしていくところを盛り込んで欲しい。</u> <p>○国内外からの来館者</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸員の意見のところ将来の姿の部分でふらっと近所の方が、高齢者がのんびりと、中高生がと書かれているが、<u>国内外の様ざまな方も来ていただくことも盛り込んで頂ければ。</u> <p>○持続可能性のある美術館</p> <p>【平田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>SDGsのキーワードにも触れている方が持続可能性のある美術館として良いのでは。</u>
<p>この10年で 先行的に取 組むべきア クション</p>	<p>○インバウンドの戦略、市民や市内店舗、有償ボランティアの関わり</p> <p>【大西委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が久保惣記念美術館とどう関わっていけるのか、<u>和泉市には昔ながらの和菓子・豆腐屋・ガラス玉工芸等、良いお店がたくさんあるので連携出来ないかと考えている。</u> ・ インバウンドを例に出したが<u>体験することの重み</u>が強い。アクションプランや大阪府の計画にもインバウンドに向けた取組が入っているので、<u>市民がそれに参加する形、和泉市が既存のお店との文化との関わりも含めて活性化していけたら良い。</u> ・ 今後、<u>有償ボランティアが、インバウンドに関わる形にして</u>いってはどうかと思う。 <p>【井上委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前のインフォメーションには、和泉市の土産物が並んでいるがもう少し何か工

夫がないと人が集まらないのではないか。大学の学生が和泉スイーツをつくっているので、久保惣記念美術館と連携できればと考えている。

○企業と美術館との関わり

【高橋副委員長】

- ・ ②の関係機関との連携のところで、会議所としては「和泉会議所だより」という広報を毎月発行するので載せることはできる。来年度からペーパーレスでデジタル化されるが対象企業が2500程ありそこに向けて配信できる。
- ・ テクノステージの大企業の方がたが接待する場がなく、食事する場所も遠いと聞く。西棟応接室を借りて食事の提供や、茶室を利用して学芸員に紹介をしてもらう等、和泉市を知っていただく接待に使えないか。茶室も是非使いたい。

【井上委員長】

- ・ アメリカの美術館では展示室でパーティーをする事例がある。久保惣記念美術館が持っている資源を有効活用する意味で展示室を使うというのも一手である。一方で作品に対して保存科学の面で十分にメンテナンスできるか、バランスを取らなくてはいけない部分。人と施設に関わる部分であるので人材・金銭の手当を和泉市にも要望したいところである。

○サテライト美術館

【大西委員】

- ・ 日本のいくつかの美術館がロケーションの関係でサテライト美術館を開設している。長期的に継続していくということではなく、アピールを終えたら引き上げてもいい。
- ・ インバウンドの方がふらっと立ち寄れる場所、閑空との間にあるという特性を活かし、富裕層のお客様もいるので、芸術だけでなく食の文化も伝えたい。

○組織マネジメントの強化

【井上委員長】

- ・ 学芸員の人材確保について、15年経つとほぼ全ての学芸員が居なくなる。15年先を見据えて久保惣記念美術館の財産をどう残していけるのか、その体制を考えることが必要。